

# 災害時の「尊厳」を守れるか？

## ～世田谷のトイレ対策を問う～



能登半島地震の被災地でも深刻な課題となった「トイレ問題」。不便さから排泄を我慢することは、命に関わる健康被害や公衆衛生の悪化を招きます。生活者ネットワーク世田谷区議団は、3月の予算特別委員会を通して、区の現状の対策をチェックしました。明らかになったのは、防災直後に発生する膨大な「し尿ごみ」への想定外の甘さや、公園・マンションにおけるマンホールトイレの活用不足、そして公共トイレに潜む深刻な男女格差です。災害時であっても、誰もが尊厳ある生活を送れるように、今、世田谷区が取り組むべき具体的な課題と私たちの提言を報告します。

### たまには区議会をのぞいてみませんか？

私は18年前に脳梗塞になり、一時は命の危険もありました。現在、高次脳機能障害の当事者相談員をできるまで回復し、自助グループを8年間、立ち上げ活動しています。

関口江利子さんと出会ったのは5年前、世田谷区で行われた高次脳機能障害のガイドヘルパー研修のお手伝いをしていたときです。そのご縁から、当事者の集まりである「リンゴの木」にも関わっていただくようになりました。2023年に区議会議員となられてからは、ますますお忙しい中でも時間を見つけて活動を支えてくださっています。

その姿に背中を押されるように、私自身も不器用ながら生活者ネットワークの活動に関わるようになりました。そして今回、高次脳機能障害の当事者アンケートを区議会に届けることができました。小さな声でも、つながることで形となり、行政に届くのだと実感しました。

私はかつてマスメディアの仕事に携わっていましたが、今回の一連の経験を通して、社会を動かす力は遠くにあるのではなく、地域の中にあるのだと強く感じています。日々の暮らしの中で感じる疑問や願いを持ち帰り、対話を重ねながら意見をそだてていくこと。それこそが、より良い社会をつくる一歩になるのではないのでしょうか。

区議会は、私たちの生活に直結する身近な場所です。「あなたの区議会をのぞいてみませんか?!」どんな形でも、関心を持って参加する人が1人でも増えることを心から願います。

高次脳機能障害自助グループ リンゴの木代表 廣井佳代子

### 2026(令和8)年 第2回世田谷区議会定例会

6月10日～19日、世田谷区議会第2回定例会が行われます。

6月11日(木)または12日(金)には、おのみずき、関口江利子が一一般質問に立つ予定です。ぜひ傍聴にいらしてください。

区議会HPでインターネット中継もご覧いただけます(UDトークによる自動文字起こしあり)。詳細は世田谷・生活者ネットワークHPで

世田谷区議会 インターネット議会中継▶



### 「日本政府に対して、平和国家としての責任を果たす対応を強く要請する決議」賛成多数で可決

2026年2月28日、米国とイスラエルは共同でイランに対する大規模な軍事攻撃を実施しました。これに対しイランは反撃し、ホルムズ海峡の封鎖を示唆。周辺国も巻き込み、中東情勢は急速に緊迫化しています。この状況を受け、先の定例会最終日の本会議において、上記決議に関する議員提出議案が提出され、生活者ネットワークを含む賛成多数で可決されました。

世田谷区議会として、政府に対し「武力ではなく平和的外交」を強く求めることは、区民の生命と財産を守るべき私たちの当然の責務です。反戦のペンライトを高く掲げる全国数多の市民と連帯し、生活者ネットワークは、平和憲法を守り、世田谷の地から国際平和をより一層強く希求してまいります。



①世田谷・生活者ネットワーク 平和部会のステートメントはこちら

### 「介護保険制度の持続可能性の確保を求める意見書」賛成多数で可決

コロナ禍以降、世田谷区の訪問介護ヘルパーは約800名減少し、現場は危機的状況です。ヘルパーの処遇改善は急務ですが、処遇を上げると利用者の負担増に直結する今の制度は見直さなければなりません。低所得世帯が介護サービスの利用を諦めないよう、自己負担ではなく基本報酬の底上げで対応すべきです。介護離職やヤングケアラーを生み出さないためにも、将来的には公費負担を増やし、誰もが自分らしく最期を迎えられる持続可能な制度を国に求めるべく、地方議会から声を届ける本意見書に賛成しました。



### 発災わずか3時間で「156トン」。膨大なし尿ごみ、どう運ぶ？

災害時、トイレは排水管の安全が確認できるまで使うことができません。中でもマンションは、戸建て住宅に比べて排水管の状況を把握することが難しいため再開に時間がかかります。その際に不可欠な「携帯トイレ」ですが、発生する「し尿ごみ」の処理計画は極めて不透明です。能登半島地震のアンケート調査では、被災者の半数以上が3時間以内にトイレを必要と感じています。世田谷区の人口に換算すると、発災わずか3時間で約156トンものし尿ごみが発生することになり、膨大な量が自宅に溜まり続けます。①今は全くできていないマンションにおける排水管の安全確認の方法の周知徹底と、②し尿ごみ等の回収に必要な車両・人員をタイムライン(時間軸)に沿って具体的に想定するよう強く求めました。



### 「あるのに使えない」マンホールトイレを解消せよ

区内65箇所の区立公園等に設置されているマンホールトイレ。しかし、いざという時に活用できる状態でしょうか。おのが、女性防災コーディネーターとして夜間の公園を点検したところ、マンホールの位置が分からず、灯りも不足している現状を目の当たりにしました。特に烏山地域の公園には停電時に役立つソーラー照明が1基も設置されていません。また、マンションでもマンホールトイレの設置は「努力義務」に留まっているため、区は実数を把握できていません。さらに、設備はあっても、その上に設置する「便座やテント(上物)」を備蓄していないマンションも多いのが実情です。せっかくの設備が「使える」ものとなるよう、設置場所の周知や夜間の灯り確保、マンションの「上物」購入への助成を強化し、自助・共助を支える仕組みづくりを提案しました。



### 公共トイレに潜むジェンダー格差 1対2.32の壁

公共トイレの使い勝手も、避難生活の質を大きく左右します。今回の質疑によって、区立公園等のトイレ便器数は、女性用11に対して男性用(小便器含む)が2.32という大きな格差があることが分かりました。こうした格差は、発災時に指定避難所となる区立学校でも確認されています。

月経への対応や介助利用など、女性は一回あたりの滞在時間が長くなる傾向にあります。それにもかかわらず便器数が少ない現状は、駅や公共施設で女性トイレだけが行列を作る「不平等」を生んでいます。

これからの整備に求められるのは、単なる面積の公平性ではなく、実際のニーズに基づいた「待ち時間の平等」です。新設される(仮称)北烏山七丁目緑地などの設計段階から、インターセクショナルリティ(年齢、性別、障害の有無などが交差する視点)を導入し、平時から誰もが安心して利用できる公共施設の設計を強く求めました。



### 生活者の声から、命と尊厳を守る インクルーシブ防災へ

トイレ問題は、福祉、ジェンダー、教育、住宅、多文化共生など、あらゆる領域が交差する課題です。世田谷区は今年度、「災害時トイレ確保・管理計画(仮称)」の策定を予定していますが、生活者のリアルな声を無視した計画は、いざという時に機能しません。私たちは今後も引き続き、様々な形で提言を続け、誰も取り残さない、尊厳ある世田谷の防災を実現していきます。ぜひ皆さまの声を生活者ネットワークにお寄せください。



暮らしの中での困りごとなど、お気軽にご相談ください！

☎03-3420-0737 世田谷・生活者ネットワークHPからもお問い合わせいただけます。



カンパをお願いします 生活者ネットワークの活動は、カンパとボランティアで支えられています。カンパは1口1,000円から、いくらでも、いつでも受け付けています。どうぞよろしくお願致します。



【ゆうちょ銀行】 世田谷・生活者ネットワーク(記号)00110-1-765709 店名)019 当)0765709 ※政治資金規程法により政治団体への匿名カンパは禁止されています。お振込の際は、ご住所、お名前、ご職業を明記いただくか、別途お知らせいただくようお願い致します。

3 せたがや生活者ネットワークのルール 1 議員は交代制(ローテーション) 2 議員報酬は市民の政治活動資金に 3 選挙はカンパとボランティアで 2026年4月20日号 【編集・発行】世田谷・生活者ネットワーク 世田谷・生活者ネットワーク代表/西崎光子 〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-12-14 原ビル2階 TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744 email: setagaya@seikatsusha.net https://setagaya.seikatsusha.me

### 予算の「見えない偏り」を可視化する—ジェンダー予算の視点



世田谷区の令和8年度一般会計当初予算は、過去最大の4,314億円(特別会計含め6,210億円)となりました。この巨額な税金の使途や政策効果などについて、区議会議員はそれぞれの“眼鏡”をかけて、綿密にチェックします(=予算審議)。

“眼鏡”の種類は実にさまざま。おの今回は、区議会で初めて「ジェンダー予算」という考え方を持ち込み、予算審議に臨みました。

### ジェンダー予算(gender-responsive budgeting: GRB)とは?

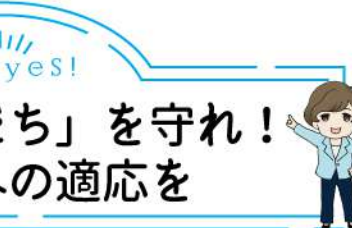
国や地方自治体の予算がジェンダー平等を促進しているかどうかを分析し、資源配分や政策立案に活用する手法。女性と男性の不平等を改善するように予算が配分されているか、さらにジェンダー平等社会を構築するための様々なニーズを満たしているかを精査します。女性向け予算の拡大を求めるのではなく、政策や事業の背後にある「負担と便益の偏り」や「見えにくいケア労働」を可視化し、格差を是正することに本質があります。



おのみずき



関口江利子



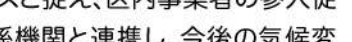
### 「せたがやそだち」を守れ! 気候変動への適応を

せたがやの地場野菜「大蔵大根」をはじめ、近年の猛暑による「せたがやそだち」の収穫量減少や品質低下は、もはや無視できない深刻な事態です。温室効果ガスの排出削減による気候変動の抑制を目指す「緩和策」に加え、避けられない悪影響を軽減し、また既に起きている変化を有効に活用しながらより良い生活を目指す「適応策」が不可欠となっています。

おのは予算審議において、農家の自助努力に頼るのではなく、高温耐性品種の開発や適応技術の導入など、生産者の生計を支える、より踏み込んだ支援を区に求めました。また、この危機を「適応ビジネス」のチャンスと捉え、区内事業者の参入促進も提案。区からは『農家や関係機関と連携し、今後の気候変動影響予測も考慮した取組みを検討していく』旨の前向きな答弁を得ました。持続可能な都市農業に向けて、引き続き実効性のある対策を求めています。



区内農家の方と大根



### 非常勤講師の声もとどけ! 疲弊する学校現場について



区立学校において、非常勤講師が生徒から長期に渡り授業妨害を受け、適応障害で休職に追い込まれる事案が発生しました。このような生徒から教員への暴言は、教員の雇用形態が大きく影響を受けていることを指摘し、学校は「指導力不足」と個人のスキルにすり替えるのではなく学校全体で対応すべきと求めました。区教委は、立場を問わず不適切な言動は許されないとし、校長会等で事例を共有し、非常勤を含む全教職員が相談しやすい環境整備や、ハラスメント防止に向けた体制改善に取り組むと答弁しました。しかし、校長会へは口頭での指導であり、実際の取組みは学校長に任されています。区教委は真剣に強い意志を持って取り組むことが必要です。



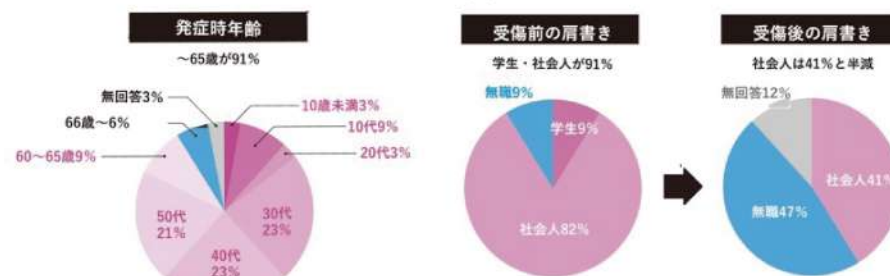
### 市民と共に高次脳機能障害のある人への支援強化へ

当事者と家族の長年の悲願が叶い、「高次脳機能障害者支援法」が国会で成立、本年4月から施行されました。これから、新法を基に地方自治体に具体策が示されますが、待ちの姿勢ではなく今できることに着手するべきと求めました。これに合わせて区内の自助グループとも連携し、当事者アンケートの結果を示しながら必要な支援について訴えました。高次脳機能障害は、元々健康だった人が思わぬ病気や事故によって脳を損傷し、記憶や言語、社会的行動などに困難さが生まれます。当事者の多くがまだ若く、その後の何十年という人生を支えるためには、就学・就労を含めた生活全般の支援が必要です。例えば、小児脳腫瘍(小児癌)の後遺症などで子どものうちに高次脳機能障害になった場合、発達障害との区別がつきにくく、学校教員の理解が非常に重要です。主に「障害のある職員の定着支援」「高次脳機能障害者児の実態調査」「障害理解の促進」について、一般質問・予算特別委員会で4度に渡り丁寧に質疑しました。

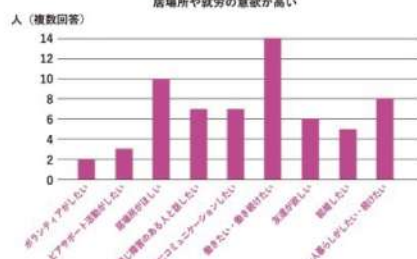
法律成立!日本高次脳機能障害者の会緊急集会



法律成立の緊急集会へ区内当事者と共に



当事者のグループによるアンケートより(2026年、n=34人) 現役世代の受傷が多いが復職できた人は少ない。当事者の社会参加への意欲を支援する必要がある。



### 当区立学校初、課題の多い人工芝グラウンドがついに導入!

区立松沢中学校が、改築により人工芝の校庭になることが決まりました。人工芝は、使用中はマイクロプラスチックの発生源になり、10~15年で張替え・廃棄となる環境負荷の高い素材です。これまで世田谷区は、グラウンドはダスト舗装を基本としていましたが、近隣から砂埃への懸念が強く、雨上がり後の使用再開が早いという理由で導入に踏み切りました。人工芝のマイクロプラスチックは、下水から海に流れ出るだけでなく、花粉よりも小さくなって舞い上がり、呼吸や皮膚から体内に侵入することが知られています。

PM2.5と同じ炎症反応が肺で起きていることも研究報告がありますが、健康への評価はまだ確立していません。しかし、予防の原則から子ども施設への導入は避けるべきです。どうか皆さん、一緒に声を上げていきましょう。



人工芝から出るマイクロプラスチックでびっしり詰まった集塵設備(右)。流出抑制は一部にとどまり、排水管を通じて海へ流れ出ます。多摩市「人工芝におけるマイクロプラスチック流出抑制対策ガイドライン」より

### 区施設での生理用品の無料設置がはじまりました!



設置場所や利用方法は こちらから▶



昨年6月定例会でのおのの提案を受けて、具体的な検討が進み出した世田谷区の「月経」政策。その一環として、2026年4月1日より、189施設・2,684箇所の区施設トイレで生理用品の無料設置がよいよスタート!だれでも使える生理用品、ぜひご利用ください。



ディスペンサーは箱型と電動式の2種類あります▶



▲世田谷区予算見える化ボード



▲令和8年度当初予算概要